

タイの看護師、視察を終え帰国へ

タイのメーサイ病院看護師、パトゥマーン・ウッタラ（愛称エウ）さんとラトレー・ブラプラサート（愛称ティ）さんの2人は、約1カ月間の城西病院などでの視察を終え、3月3日に帰国します。

2人は2月3日に来日し、城西病院や特別養護老人ホーム「ヒューマン・ハウス」、介護老人保健施設「すばる」などで視察するとともに、結城市内や日光、大洗などを回ってきました。

視察では、常にスマートホン片手に、気になったものがあると撮影し、辞書などを立ち上げてスタッフなどと会話していました。

医療に関しては、日本とタイで大きな違いがなく、システムの違いや、さまざまな物を工夫して使っている様子に感心していました。また、メーサイ病院に比べて患者さんに高齢の方が多くという印象を持ち、「タイでは、退院が近づくと家族や親族を呼び、リハビリの方法を教えて家に戻します。日本のように病院でリハビリを行ったり、高齢者施設に行くということはありません」と、日本とタイの医療システムの違い、そして介護に対するシステムの違いを話していました。

2010年にミャンマーとの国境でミャンマー国軍と少数民族の戦闘が起き、メーサイ市民が避難しました。エウさんは当時、メーサイ病院に勤務。病院職員も希望者は避難し、ボランティアで病院を運営したといいます。「その時は、戦闘の負傷者を運ぶにも救急車が足りない、重症患者の処置が間に合わないという事態になりました。今もミャンマーは安定していません」と、当手を思い出しながら話しました。

2020年2月27日

エウさん

城西病院の看護師さんは、患者さんのケアをするとき、声をかけたり笑顔を見せてとても丁寧に接していました。メーサイ病院では、外来が1日500人、救急が50人で、休日には救急が130人近く来て、外来と救急を分けています。

病室や手術室に入ったとき、タイにない医療機器がいっぱいあって、すごいと思いました。メーサイ病院は中国やラオスの国境に接し、いろんな言語を話す人が来ます。日本のように、機械で受診の受付ができるというのですが、言葉が壁になっています。



ティさん

日本の透析はオンラインシステムが素晴らしいと感じました。日本では機械が行う水や薬は、タイでは看護師がすべて準備します。オンラインシステムだと、感染予防もしっかりできます。タイでは透析の患者さんは50～60歳代が多く、日本は高齢の方が多く感じました。タイでは医療保険のシステムが悪く、医療保険に入れる人は治療費などは安いですが、医療保険を持っていない人が大勢います。そして日本では介護のシステムがしっかりしているのに驚きました。

